

全体の傾向としては、初回から4回目にかけては、「ときどきある」「ある」の割合が増加するが、予防有用型群については、ほとんど変化がなかった。

#### (46) 夜間不眠あるいは昼夜の逆転が（昼夜逆転）

予防有用型では、夜間不眠あるいは昼夜の逆転について、初回は、「ない」が5,800名（87.9%）で、「ときどきある」が411名（6.2%）で、「ある」が386名（5.9%）であった。2回目は、「ない」が5,982名（90.7%）で、「ときどきある」が324名（4.9%）で、「ある」が291名（4.4%）であった。3回目は、「ない」が5,990名（90.8%）で、「ときどきある」が318名（4.8%）で、「ある」が289名（4.4%）であった。4回目は、「ない」が6,006名（91.0%）で、「ときどきある」が329名（5.0%）で、「ある」が262名（4.0%）であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群は、2回目から4回目にかけての「ときどきある」「ある」の割合がほとんどなかった。また2回から4回目まで、昼夜逆転は、90%以上に発生していなかった。

#### (47) 暴言暴行

予防有用型では、暴言や暴行について、初回は、「ない」が6,450名（97.8%）で、「ときどきある」が89名（1.3%）で、「ある」が58名（0.9%）であった。2回目は、「ない」が6,481名（98.2%）で、「ときどきある」が73名（1.1%）で、「ある」が43名（0.7%）であった。3回目は、「ない」が6,462名（98.0%）で、「ときどきある」が82名（1.2%）で、「ある」が53名（0.8%）であった。4回目は、「ない」が6,459名（97.9%）で、「ときどきある」が80名（1.2%）で、「ある」が58名（0.9%）であった。

全体の傾向としては、認定回数が増えるにしたがって暴言暴行も増加していたが、予防有用型群においては、初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合は、ほとんど変化しなかった。

#### (48) しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てることが（同じ話をする）

予防有用型では、しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てることについては、初回は、「ない」が5,925名（89.8%）で、「ときどきある」が275名（4.2%）で、「ある」が397名（6.0%）であった。2回目は、「ない」が5,920名（89.7%）で、「ときどきある」が265名（4.0%）で、「ある」が412名（6.2%）であった。3回目は、「ない」が5,916名（89.7%）で、「ときどきある」が244名（3.7%）で、「ある」が437名（6.6%）であった。4回目は、「ない」が5,875名（89.1%）で、「ときどきある」が260名（3.9%）で、「ある」が462名（7.0%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合の変化は、少なかった。ただし、同じ話をする割合は、予防有用型のほうが少なく、ほぼ半分程度であった。

(49) 大声をだすことが (大声を出す)

予防有用型では、大声をだすことについては、初回は、「ない」が 6,463 名 (98.0 %) で、「ときどきある」が 77 名 (1.2 %) で、「ある」が 57 名 (0.9 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,484 名 (98.3 %) で、「ときどきある」が 74 名 (1.1 %) で、「ある」が 39 名 (0.6 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,480 名 (98.2 %) で、「ときどきある」が 82 名 (1.2 %) で、「ある」が 35 名 (0.5 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,475 名 (98.2 %) で、「ときどきある」が 71 名 (1.1 %) で、「ある」が 51 名 (0.8 %) であった。

全体の傾向としては、2 回目から 4 回目にかけて、大声を出すという問題行動が「ときどきある」「ある」の割合は増加していたが、予防有用型群は、初回から 4 回目において、この割合には、ほとんど変化がなかった。

(50) 助言や介護に抵抗することが (介護に抵抗)

予防有用型では、助言や介護に抵抗することについて、初回は、「ない」が 6,322 名 (95.8 %) で、「ときどきある」が 163 名 (2.5 %) で、「ある」が 112 名 (1.7 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,334 名 (96.0 %) で、「ときどきある」が 151 名 (2.3 %) で、「ある」が 112 名 (1.7 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,304 名 (95.6 %) で、「ときどきある」が 161 名 (2.4 %) で、「ある」が 132 名 (2.0 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,313 名 (95.7 %) で、「ときどきある」が 153 名 (2.3 %) で、「ある」が 131 名 (2.0 %) であった。

全体の傾向としては、初回から 4 回目まで、「ときどきある」「ある」の割合が増加していたが、予防有用型群は、この割合にほとんど変化がなかった。

(51) 常時の徘徊

予防有用型では、目的もなく動き回ることに、初回は、「ない」が 6,522 名 (98.9 %) で、「ときどきある」が 44 名 (0.7 %) で、「ある」が 31 名 (0.5 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,550 名 (99.3 %) で、「ときどきある」が 26 名 (0.4 %) で、「ある」が 21 名 (0.3 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,555 名 (99.4 %) で、「ときどきある」が 20 名 (0.3 %) で、「ある」が 22 名 (0.3 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,550 名 (99.3 %) で、「ときどきある」が 25 名 (0.4 %) で、「ある」が 22 名 (0.3 %) であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から 4 回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合には、ほとんど変化がなかった。ほぼ 99% に、この問題行動は発生していなかった。

(52) 「家に帰る」等と言い落ち着きがなくなる (帰宅願望)

予防有用型では、「家に帰る」等と言い落ち着きがなくなることについては、初回は、「ない」が 6,525 名 (98.9 %) で、「ときどきある」が 38 名 (0.6 %) で、「ある」が 34 名 (0.5 %)

であった。2回目は、「ない」が6,554名(99.3%)で、「ときどきある」が28名(0.4%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,523名(98.9%)で、「ときどきある」が40名(0.6%)で、「ある」が34名(0.5%)であった。4回目は、「ない」が6,532名(99.0%)で、「ときどきある」が36名(0.5%)で、「ある」が29名(0.4%)であった。

全体の傾向としては、認定回数が増加するにしたがって、若干、帰宅願望による門内行動も増加していたが、予防有用型群では、初回から、4回まで98%以上の者に、この問題行動は発生していなかった。

(53) 外出すると病院、施設、家などに人で戻れなくなることが(外出して戻れない)

予防有用型では、外出すると病院、施設、家などに人で戻れなくなることについては、初回は、「ない」が6,540名(99.1%)で、「ときどきある」が35名(0.5%)で、「ある」が22名(0.3%)であった。2回目は、「ない」が6,548名(99.3%)で、「ときどきある」が36名(0.5%)で、「ある」が13名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,559名(99.4%)で、「ときどきある」が22名(0.3%)で、「ある」が16名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,557名(99.4%)で、「ときどきある」が27名(0.4%)で、「ある」が13名(0.2%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、初回から4回目の変化はほとんどなく、99%以上に、この問題行動はなかった。

(54) 1人で外に出たがり目が離せないことが(一人で出たがる)

予防有用型では、1人で外に出たがり目が離せないことについては、初回は、「ない」が6,549名(99.3%)で、「ときどきある」が18名(0.3%)で、「ある」が30名(0.5%)であった。2回目は、「ない」が6,547名(99.2%)で、「ときどきある」が24名(0.4%)で、「ある」が26名(0.4%)であった。3回目は、「ない」が6,538名(99.1%)で、「ときどきある」が34名(0.5%)で、「ある」が25名(0.4%)であった。4回目は、「ない」が6,543名(99.2%)で、「ときどきある」が32名(0.5%)で、「ある」が22名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、初回から4回目の変化はほとんどなく、99%以上に、この問題行動はなかった。

(55) いろいろなものを集めたり、無断でもってくるものが(収集癖)

予防有用型では、いろいろなものを集めたり、無断でもってくることについては、初回は、「ない」が6,570名(99.6%)で、「ときどきある」が13名(0.2%)で、「ある」が14名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,563名(99.5%)で、「ときどきある」が19名(0.3%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,563名(99.5%)で、「ときどきある」が13名(0.2%)で、「ある」が21名(0.3%)であ

った。4回目は、「ない」が6,543名(99.2%)で、「ときどきある」が19名(0.3%)で、「ある」が35名(0.5%)であった。

全体の傾向と比較して、全体は初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合が増加するが、予防有用型群には、変化はなく、すべての回において、99%以上に、この問題行動はなかった。

#### (56) 火の始末や火元の管理ができないことが(火の不始末)

予防有用型では、火の始末や火元の管理ができないことについては、初回は、「ない」が6,015名(91.2%)で、「ときどきある」が415名(6.3%)で、「ある」が167名(2.5%)であった。2回目は、「ない」が6,036名(91.5%)で、「ときどきある」が421名(6.4%)で、「ある」が140名(2.1%)であった。3回目は、「ない」が6,058名(91.8%)で、「ときどきある」が414名(6.3%)で、「ある」が125名(1.9%)であった。4回目は、「ない」が6,067名(92.0%)で、「ときどきある」が395名(6.0%)で、「ある」が135名(2.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合は減少していた。

#### (57) 物や衣類を壊したり、破いたりすることが(物や衣類を壊す)

予防有用型では、物や衣類を壊したり、破いたりすることについては、初回は、「ない」が6,583名(99.8%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。2回目は、「ない」が6,585名(99.8%)で、「ときどきある」が11名(0.2%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。3回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が5名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。4回目は、「ない」が6,590名(99.9%)で、「ときどきある」が6名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて、「ときどきある」「ある」の割合は低く、介護予防有用型では、0.2%か0.1%であった。初回から4回までの変動もほとんどなかった。

#### (58) 不潔行為

予防有用型では、不潔な行為を行うことについては、初回は、「ない」が6,556名(99.4%)で、「ときどきある」が21名(0.3%)で、「ある」が20名(0.3%)であった。2回目は、「ない」が6,570名(99.6%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,575名(99.7%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が10名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,582名(99.8%)で、「ときどきある」が10名(0.2%)で、「ある」が5名(0.1%)であっ

た。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合は、低く0.6%から0.2%であった。初回から4回目の変動もほとんどなかった。

#### (59) 食べられないものを口に入れることが（異食行動）

予防有用型では、食べられないものを口に入れることについては、初回は、「ない」が6,592名（99.9%）で、「ときどきある」が4名（0.1%）で、「ある」が1名（0.0%）であった。2回目は、「ない」が6,592名（99.9%）で、「ときどきある」が4名（0.1%）で、「ある」が1名（0.0%）であった。3回目は、「ない」が6,595名（100.0%）で、「ときどきある」が1名（0.0%）で、「ある」が1名（0.0%）であった。4回目は、「ない」が6,592名（99.9%）で、「ときどきある」が5名（0.1%）で、「ある」が0名（0.0%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、異食行動は、ほとんど発生していなかった。

#### (60) ひどい物忘れ

予防有用型では、ひどい物忘れについては、初回は、「ない」が4,306名（65.3%）で、「ときどきある」が1,396名（21.2%）で、「ある」が895名（13.6%）であった。2回目は、「ない」が4,214名（63.9%）で、「ときどきある」が1,470名（22.3%）で、「ある」が913名（13.8%）であった。3回目は、「ない」が4,183名（63.4%）で、「ときどきある」が1,416名（21.5%）で、「ある」が998名（15.1%）であった。4回目は、「ない」が4,132名（62.6%）で、「ときどきある」が1,401名（21.2%）で、「ある」が1,064名（16.1%）であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群は、初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合が漸次、増加する傾向があることがわかった。

## 2.医療処置項目からみた経年的変化

### (1) 点滴の管理

予防有用型では、点滴の管理については、初回は、「ない」が6,197名(93.9%)で、「ある」が400名(6.1%)であった。2回目は、「ない」が6,323名(95.8%)で、「ある」が274名(4.2%)であった。3回目は、「ない」が6,337名(96.1%)で、「ある」が260名(3.9%)であった。4回目は、「ない」が6,364名(96.5%)で、「ある」が233名(3.5%)であった。

全体の傾向とほぼ類似していたが、予防有用型群は、初回から4回目にかけて「ある」の割合が減少していた。

### (2) 中心静脈栄養

予防有用型では、中心静脈栄養については、初回は、「ない」が6,587名(99.8%)で、「ある」が10名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。3回目は、「ない」が6,593名(99.9%)で、「ある」が4名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,595名(100.0%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。全体の傾向と同様に予防有用型群では、中心静脈栄養は使っていなかった。

### (3) 透析

予防有用型では、透析について、初回は、「ない」が6,519名(98.8%)で、「ある」が78名(1.2%)であった。2回目は、「ない」が6,512名(98.7%)で、「ある」が85名(1.3%)であった。3回目は、「ない」が6,504名(98.6%)で、「ある」が93名(1.4%)であった。4回目は、「ない」が6,495名(98.5%)で、「ある」が102名(1.5%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「透析あり」の割合は増加していた。

### (4) ストーマの処置

予防有用型では、ストーマの処置については、初回は、「ない」が6,583名(99.8%)で、「ある」が14名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,581名(99.8%)で、「ある」が16名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「ストーマの処置」は発生しておらず、回数別の発生率にも、ほとんど変化がなかった。

#### (5) 酸素療法

予防有用型では、酸素療法については、初回は、「ない」が 6,472 名 (98.1 %) で、「ある」が 125 名 (1.9 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,469 名 (98.1 %) で、「ある」が 128 名 (1.9 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,466 名 (98.0 %) で、「ある」が 131 名 (2.0 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,452 名 (97.8 %) で、「ある」が 145 名 (2.2 %) であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群は、2 回目から 4 回目にかけて、わずかに「酸素療法あり」の割合が増加していた。

#### (6) レスピレーター

予防有用型では、レスピレーターについては、初回は、「ない」が 6,595 名 (100 %) で、「ある」が 2 名 (0 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,595 名 (100 %) で、「ある」が 2 名 (0 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,593 名 (99.9 %) で、「ある」が 4 名 (0.1 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,594 名 (100 %) で、「ある」が 3 名 (0%) であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から 4 回目にかけて「レスピレーター」は発生しておらず、回数別の発生率にも、ほとんど変化がなかった。

#### (7) 気管切開の処置

予防有用型では、気管切開の処置については、初回は、「ない」が 6,585 名 (99.8 %) で、「ある」が 12 名 (0.2 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,592 名 (99.9 %) で、「ある」が 5 名 (0.1 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,592 名 (99.9 %) で、「ある」が 5 名 (0.1 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,592 名 (99.9 %) で、「ある」が 5 名 (0.1 %) であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から 4 回目にかけて気管切開の処置は発生しておらず、回数別にも変化もなかった。

#### (8) 疼痛の看護

予防有用型では、疼痛の看護については、初回は、「ない」が 5,493 名 (83.3 %) で、「ある」が 1,104 名 (16.7 %) であった。2 回目は、「ない」が 5,460 名 (82.8 %) で、「ある」が 1,137 名 (17.2 %) であった。3 回目は、「ない」が 5,489 名 (83.2 %) で、「ある」が 1,108 名 (16.8 %) であった。4 回目は、「ない」が 5,479 名 (83.1 %) で、「ある」が 1,118 名 (16.9 %) であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から 4 回目にかけて「ある」の割合はあまり変化していなかったが、全体の傾向よりも、予防有用型群のほうが疼痛の看護を受けた割合がすべての回において高かった。

#### (9) 経管栄養

予防有用型では、経管栄養について、初回は、「ない」が6,588名(99.9%)で、「ある」が9名(0.1%)であった。2回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ある」が6名(0.1%)であった。3回目は、「ない」が6,593名(99.9%)で、「ある」が4名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,594名(100.0%)で、「ある」が3名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「経管栄養」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

#### (10) モニター測定

予防有用型では、モニター測定については、初回は、「ない」が6,569名(99.6%)で、「ある」が28名(0.4%)であった。2回目は、「ない」が6,579名(99.7%)で、「ある」が18名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,585名(99.8%)で、「ある」が12名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「モニター測定」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

#### (11) じょくそうの処置

予防有用型では、じょくそうの処置について、初回は、「ない」が6,548名(99.3%)で、「ある」が49名(0.7%)であった。2回目は、「ない」が6,577名(99.7%)で、「ある」が20名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,576名(99.7%)で、「ある」が21名(0.3%)であった。4回目は、「ない」が6,574名(99.7%)で、「ある」が23名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「じょくそうの処置」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

#### (12) カテーテル

予防有用型では、カテーテルについて、初回は、「ない」が6,509名(98.7%)で、「ある」が88名(1.3%)であった。2回目は、「ない」が6,552名(99.3%)で、「ある」が45名(0.7%)であった。3回目は、「ない」が6,556名(99.4%)で、「ある」が41名(0.6%)であった。4回目は、「ない」が6,567名(99.5%)で、「ある」が30名(0.5%)であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群については、初回から4回目にかけて「カテーテルあり」の割合が減少していた。



### 3.要介護認定ロジック改訂前の旧項目からみた経年的変化

#### (1) 両足での座位

予防有用型では、両足での座位について、初回は、「できる」が4,909名(74.4%)で、「自分の手で支えればできる」が1,102名(16.7%)で、「支えてもらえばできる」が529名(8.0%)で、「できない」が57名(0.9%)であった。2回目は、「できる」が5,065名(76.8%)で、「自分の手で支えればできる」が1,120名(17.0%)で、「支えてもらえばできる」が394名(6.0%)で、「できない」が18名(0.3%)であった。3回目は、「できる」が5,023名(76.1%)で、「自分の手で支えればできる」が1,169名(17.7%)で、「支えてもらえばできる」が386名(5.9%)で、「できない」が19名(0.3%)であった。4回目は、「できる」が4,991名(75.7%)で、「自分の手で支えればできる」が1,228名(18.6%)で、「支えてもらえばできる」が370名(5.6%)で、「できない」が8名(0.1%)であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群では、初回から4回目にかけて「支えてもらえばできる」「できない」の割合が減少していた。

#### (2) 両足つかない座位

予防有用型では、両足つかない座位について、初回は、「できる」が2,735名(41.5%)で、「自分の手で支えればできる」が2,608名(39.5%)で、「支えてもらえばできる」が1,082名(16.4%)で、「できない」が172名(2.6%)であった。2回目は、「できる」が2,681名(40.6%)で、「自分の手で支えればできる」が2,853名(43.2%)で、「支えてもらえばできる」が983名(14.9%)で、「できない」が80名(1.2%)であった。3回目は、「できる」が2,589名(39.2%)で、「自分の手で支えればできる」が2,943名(44.6%)で、「支えてもらえばできる」が989名(15.0%)で、「できない」が76名(1.2%)であった。4回目は、「できる」が2,381名(36.1%)で、「自分の手で支えればできる」が3,150名(47.7%)で、「支えてもらえばできる」が1,014名(15.4%)で、「できない」が52名(0.8%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群では、初回から4回目にかけて「できない」の割合が減少していた。

#### (3) 浴槽の出入り

予防有用型では、浴槽の出入りについては、初回は、「自立」が3,362名(51.0%)で、「一部介助」が2,027名(30.7%)で、「全介助」が298名(4.5%)で、「行っていない」が910名(13.8%)であった。2回目は、「自立」が3,472名(52.6%)で、「一部介助」が2,332名(35.3%)で、「全介助」が306名(4.6%)で、「行っていない」が487名(7.4%)であった。3回目は、「自立」が3,268名(49.5%)で、「一部介助」が2,564名(38.9%)

で、「全介助」が 299 名 (4.5 %) で、「行っていない」が 466 名 (7.1 %) であった。4 回目は、「自立」が 3,007 名 (45.6 %) で、「一部介助」が 2,914 名 (44.2 %) で、「全介助」が 263 名 (4.0 %) で、「行っていない」が 413 名 (6.3 %) であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群では、初回から 4 回目にかけて「行っていない」の割合が減少し、2 回目から 4 回目にかけては、「できない」の割合も減少していた。

#### (4) 片手胸元持ち上げ

予防有用型では、片手胸元持ち上げについて、初回は、「できる」が 6,586 名 (99.8 %) で、「介助があればできる」が 10 名 (0.2 %) で、「できない」が 1 名 (0.0 %) であった。2 回目は、「できる」が 6,588 名 (99.9 %) で、「介助があればできる」が 8 名 (0.1 %) で、「できない」が 1 名 (0.0 %) であった。3 回目は、「できる」が 6,592 名 (99.9 %) で、「介助があればできる」が 4 名 (0.1 %) で、「できない」が 1 名 (0.0 %) であった。4 回目は、「できる」が 6,595 名 (100 %) で、「介助があればできる」が 2 名 (0.0 %) で、「できない」が 0 名 (0 %) であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群でも、初回から 4 回目にかけて「ある」の割合は、ほとんど変化しておらず、99.8%以上の者ができると回答された。

#### (5) 尿意

予防有用型では、尿意について、初回は、「ある」が 6,322 名 (95.8 %) で、「ときどきある」が 212 名 (3.2 %) で、「ない」が 63 名 (1.0 %) であった。2 回目は、「ある」が 6,337 名 (96.1 %) で、「ときどきある」が 222 名 (3.4 %) で、「ない」が 38 名 (0.6 %) であった。3 回目は、「ある」が 6,285 名 (95.3 %) で、「ときどきある」が 275 名 (4.2 %) で、「ない」が 37 名 (0.6 %) であった。4 回目は、「ある」が 6,271 名 (95.1 %) で、「ときどきある」が 301 名 (4.6 %) で、「ない」が 25 名 (0.4 %) であった。

全体としては、初回から 4 回目にかけて「ときどきある」「ない」の割合が漸次、増加していたが、予防有用型群については、初回から 2 回目で減少し、3 回目、4 回目でわずかに増加するが、4 回を通じて、ほとんど変化していなかった。

#### (6) 便意

予防有用型では、便意について、初回は、「ある」が 6,430 名 (97.5 %) で、「ときどきある」が 104 名 (1.6 %) で、「ない」が 63 名 (1.0 %) であった。2 回目は、「ある」が 6,479 名 (98.2 %) で、「ときどきある」が 85 名 (1.3 %) で、「ない」が 33 名 (0.5 %) であった。3 回目は、「ある」が 6,473 名 (98.1 %) で、「ときどきある」が 98 名 (1.5 %) で、「ない」が 26 名 (0.4 %) であった。4 回目は、「ある」が 6,489 名 (98.4 %) で、「ときどきある」が 91 名 (1.4 %) で、「ない」が 17 名 (0.3 %) であった。

全体としては、初回から 4 回目にかけて「ときどきある」「ない」の割合が増加している

が、予防有用型群については、この割合が減少していた。

#### (7) 尿後の後始末

予防有用型では、排尿後の後始末について、初回は、「自立」が4,924名(74.6%)で、「間接的援助」が1,341名(20.3%)で、「直接的援助」が124名(1.9%)で、「全介助」が208名(3.2%)であった。2回目は、「自立」が5,134名(77.8%)で、「間接的援助」が1,288名(19.5%)で、「直接的援助」が83名(1.3%)で、「全介助」が92名(1.4%)であった。3回目は、「自立」が5,085名(77.1%)で、「間接的援助」が1,328名(20.1%)で、「直接的援助」が83名(1.3%)で、「全介助」が101名(1.5%)であった。4回目は、「自立」が5,008名(75.9%)で、「間接的援助」が1,485名(22.5%)で、「直接的援助」が67名(1.0%)で、「全介助」が37名(0.6%)であった。

全体の傾向と比べて、全体は初回から4回目にかけて「直接的援助」「全介助」の割合が増加しているが、予防有用型群は、認定回数が増えるにしたがって減少していた。

#### (8) 排便後の後始末

予防有用型では、排便後の後始末については、初回は、「自立」が5,210名(79.0%)で、「間接的援助」が950名(14.4%)で、「直接的援助」が204名(3.1%)で、「全介助」が233名(3.5%)であった。2回目は、「自立」が5,428名(82.3%)で、「間接的援助」が920名(13.9%)で、「直接的援助」が156名(2.4%)で、「全介助」が93名(1.4%)であった。3回目は、「自立」が5,416名(82.1%)で、「間接的援助」が917名(13.9%)で、「直接的援助」が158名(2.4%)で、「全介助」が106名(1.6%)であった。4回目は、「自立」が5,395名(81.8%)で、「間接的援助」が1,048名(15.9%)で、「直接的援助」が127名(1.9%)で、「全介助」が27名(0.4%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「直接的援助」「全介助」の割合が増加していたが予防有用型群については、減少していた。

#### (9) ボタンのかけはずし

予防有用型では、ボタンのかけはずしについて、初回は、「自立」が5,399名(81.8%)で、「見守り等」が349名(5.3%)で、「一部介助」が524名(7.9%)で、「全介助」が325名(4.9%)であった。2回目は、「自立」が5,507名(83.5%)で、「見守り等」が366名(5.5%)で、「一部介助」が496名(7.5%)で、「全介助」が228名(3.5%)であった。3回目は、「自立」が5,445名(82.5%)で、「見守り等」が414名(6.3%)で、「一部介助」が518名(7.9%)で、「全介助」が220名(3.3%)であった。4回目は、「自立」が5,433名(82.4%)で、「見守り等」が431名(6.5%)で、「一部介助」が548名(8.3%)で、「全介助」が185名(2.8%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「見守り等」「一部介助」「全介助」の割合が増

加していたが、予防有用型群は、ほとんど変化がなかった。ただし、全介助は初回から4回目まで減少していた。

#### (10) 靴下の着脱

予防有用型では、靴下の着脱について、初回は、「自立」が5,194名(78.7%)で、「見守り等」が266名(4.0%)で、「一部介助」が526名(8.0%)で、「全介助」が611名(9.3%)であった。2回目は、「自立」が5,433名(82.4%)で、「見守り等」が307名(4.7%)で、「一部介助」が455名(6.9%)で、「全介助」が402名(6.1%)であった。3回目は、「自立」が5,326名(80.7%)で、「見守り等」が331名(5.0%)で、「一部介助」が511名(7.7%)で、「全介助」が429名(6.5%)であった。4回目は、「自立」が5,375名(81.5%)で、「見守り等」が374名(5.7%)で、「一部介助」が516名(7.8%)で、「全介助」が332名(5.0%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「見守り等」「一部介助」「全介助」の割合が増加していたが、予防有用型群には、大きな変動はなかった。全介助については、初回から2回目に減少し、3回目に増加するが、4回目には再び減少し、5%を示していた。この割合は、全体の約1/5と低い値であった。

#### (11) 居室の掃除

予防有用型では、居室の掃除について、初回は、「自立」が1,111名(16.8%)で、「一部介助」が2,542名(38.5%)で、「全介助」が2,944名(44.6%)であった。2回目は、「自立」が942名(14.3%)で、「一部介助」が2,761名(41.9%)で、「全介助」が2,894名(43.9%)であった。3回目は、「自立」が791名(12.0%)で、「一部介助」が2,812名(42.6%)で、「全介助」が2,994名(45.4%)であった。4回目は、「自立」が673名(10.2%)で、「一部介助」が2,801名(42.5%)で、「全介助」が3,123名(47.3%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「一部介助」「全介助」の割合が増加し、予防有用型群も同様に増加していた。

#### (12) 周囲への無関心

予防有用型では、周囲への無関心について、初回は、「ない」が6,154名(93.3%)で、「ときどきある」が303名(4.6%)で、「ある」が140名(2.1%)であった。2回目は、「ない」が6,200名(94.0%)で、「ときどきある」が297名(4.5%)で、「ある」が100名(1.5%)であった。3回目は、「ない」が6,202名(94.0%)で、「ときどきある」が277名(4.2%)で、「ある」が118名(1.8%)であった。4回目は、「ない」が6,219名(94.3%)で、「ときどきある」が264名(4.0%)で、「ある」が114名(1.7%)であった。

全体の傾向と同じく、予防有用型群についても「ときどきある」「ある」は、初回から4回まで、ほとんど変化していなかったが、初回よりも4回目のほうが、その割合は減少していた。

### (13) 性的迷惑行為

予防有用型では、性的迷惑行為について、初回は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。2回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。3回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。4回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が2名(0.0%)で、「ある」が3名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群も「ときどきある」「ある」は、ほとんどなく、初回から4回目までの変動もなかった。

#### 4. 予防有用型における認定時の状態項目の変動

##### (1) 初回と2回目の予防有用型における基本情報の変動

予防有用型の各認定時の状態項目について初回と2回目、初回と3回目、初回と4回目の変化を分析した。この分析に際しては、順序尺度であり、データの正規性および等間隔性が保証されないため、ノンパラメトリック手法を用いて検定をした。

また麻痺等の2段階評価の場合においては、3段階以上の評価の評価では Wilcoxon の符号付順位和検定を用い、初回の状態項目結果とそれぞれの回の状態項目の結果を比較した。

この分析の結果、初回と2回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（その他）」、「両足での立位」、「歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「聴力」、「意思の伝達」、「毎日の日課を理解」、「被害的」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「暴言暴行」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」の46項目で有意な差が示された。

このうち初回から2回目にかけて悪化傾向が示された項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「意思の伝達」、「毎日の日課を理解」、「ひどい物忘れ」の10項目であり、のこりの36項目については改善傾向が示された。

改善が示された36項目のうち、「両足での立位や歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「両足での座位」、「両足つかない座位」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が向上したことが推察された。

また「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」といった日常生活動作において改善が示されていた。

「被害的な行動」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「暴言暴行」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。さらに「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 183 初回から2回目にかけて悪化傾向が示された基本情報

	基本情報	P	
1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	皮膚疾患	0.00	**
6	つめ切り	0.00	**
7	金銭の管理	0.00	**
8	意思の伝達	0.02	*
9	毎日の日課を理解	0.00	**
10	ひどい物忘れ	0.04	*

\*P<.05 \*\*P<.01

表 184 初回から2回目にかけて改善傾向が示された基本情報

	基本情報	P	
1	拘縮(その他)	0.02	*
2	両足での立位	0.00	**
3	歩行	0.00	**
4	移乗	0.00	**
5	片足での立位	0.00	**
6	洗身	0.00	**
7	じょくそう	0.00	**
8	食事摂取	0.00	**
9	口腔清潔	0.00	**
10	洗顔	0.00	**
11	整髪	0.00	**
12	上衣の着脱	0.00	**
13	ズボン等の着脱	0.00	**
14	薬の内服	0.00	**
15	聴力	0.00	**
16	被害的	0.00	**
17	幻視幻聴	0.00	**
18	昼夜逆転	0.00	**
19	暴言暴行	0.01	*
20	大声を出す	0.02	*
21	常時の徘徊	0.01	*
22	落ち着きなし	0.00	**
23	点滴の管理	0.00	**
24	気管切開の処置	0.02	*
25	じょくそうの処置	0.00	**
26	カテーテル	0.00	**
27	両足での座位	0.00	**
28	両足つかない座位	0.00	**

29	浴槽の出入り	0.00	**
30	便意	0.00	**
31	排尿後の後始末	0.00	**
32	排便後の後始末	0.00	**
33	ボタンのかけはずし	0.00	**
34	靴下の着脱	0.00	**
35	居室の掃除	0.02	*
36	周囲への無関心	0.00	**

\*P<.05 \*\*P<.01

(2) 初回と3回目の予防有用型における基本情報の変動

初回と3回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「麻痺（その他）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（その他）」、「起き上がり」、「両足での立位」、「移乗」、「片足での立位」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「金銭の管理」、「聴力」、「毎日の日課を理解」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「火の不始末」、「不潔行為」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「透析」、「気管切開の処置」、「モニター測定」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」の48項目で有意な差が示された。

初回から2回目において変動が示された項目に追加された項目としては、以下の8項目が新たに示された。このうち悪化傾向が示された項目は、起き上がり、短期記憶、今の季節を理解、透析であった。

表 185 初回と3回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

起き上がり	0.00	**
短期記憶	0.00	**
今の季節を理解	0.01	*
透析	0.00	**

\*P<.05 \*\*P<.01

表 186 初回と3回目に改善傾向が示された新たな基本情報

火の不始末	0.01	*
不潔行為	0.02	*
気管切開の処置	0.04	*
モニター測定	0.01	*

\*P<.05 \*\*P<.01



次に、初回から2回目には、何らかの変動が示された項目であったが、初回から3回目の変動には関係しなかった項目は、以下の6項目であった。これらの項目のうち、「歩行」、「薬の内服」、「被害的」、「暴言暴行」、「落ち着きなし」といった項目は、初回と3回目は同程度となったことを示している。また「意思の伝達」については、2回目に悪化した内容が初回のレベルとなったと推定される。

表 187 初回から2回目には変動傾向ありが3回目は、関連なしとなった項目

	初回⇔2回目	初回⇔3回目
歩行	0.00 **	0.12
薬の内服	0.00 **	0.05
意思の伝達	0.02 *	0.08
被害的	0.00 **	0.05
暴言暴行	0.01 *	0.45
落ち着きなし	0.00 **	0.88

\*P<.05 \*\*P<.01

このうち初回から3回目にかけて悪化傾向が示された項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「毎日の日課を理解」の8項目は、初回から2回目においても示された項目であった。

これらの項目に加えて「片足での立位」、「洗身」、「聴力」、「短期記憶」、「今の季節の理解」、「透析」、「居室の掃除」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」の9項目については、2回目には示されなかったが、3回目において初回と比較して悪化していた項目であった。

改善が示された31項目のうち、「起き上がり」、「両足での立位」や「歩行」、「移乗」、「片足での立位」、「両足での座位」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が向上したことが推察された。

また、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「排尿後の後始末」や「排便後の後始末」、「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」、「薬の内服」といった日常生活に必要な動作等において改善が示されていた。

「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「不潔行為」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率や「火の不始末」といった危険な行動についても発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。

また、「点滴の管理」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 188 初回から3回目にかけて悪化変動が示された基本情報

1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	片足での立位	0.01	*
6	洗身	0.00	**
7	皮膚疾患	0.00	**
8	つめ切り	0.00	**
9	金銭の管理	0.00	**
10	聴力	0.00	**
11	毎日の日課を理解	0.00	**
12	短期記憶	0.00	**
13	今の季節を理解	0.01	*
14	透析	0.00	**
15	居室の掃除	0.00	**
16	両足つかない座位	0.04	*
17	浴槽の出入り	0.00	**

\*P<.05 \*\*P<.01

表 189 初回から3回目にかけて改善傾向が示された基本情報

1	拘縮(その他)	0.00	**
2	起き上がり	0.00	**
3	両足での立位	0.00	**
4	移乗	0.00	**
5	じょくそう	0.00	**
6	食事摂取	0.01	*
7	口腔清潔	0.00	**
8	洗顔	0.00	**
9	整髪	0.00	**
10	上衣の着脱	0.00	**
11	ズボン等の着脱	0.00	**
12	薬の内服	0.00	**
13	幻視幻聴	0.00	**
14	昼夜逆転	0.00	**
15	大声を出す	0.03	*
16	常時の徘徊	0.01	*
17	火の不始末	0.01	*
18	不潔行為	0.02	*
19	ひどい物忘れ	0.00	**
20	点滴の管理	0.00	**
21	気管切開の処置	0.04	*
22	モニター測定	0.01	*
23	じょくそうの処置	0.00	**
24	カテーテル	0.00	**
25	両足での座位	0.00	**

26	便意	0.00	**
27	排尿後の後始末	0.00	**
28	排便後の後始末	0.00	**
29	ボタンのかけはずし	0.00	**
30	靴下の着脱	0.00	**
31	周囲への無関心	0.03	*

\*P<.05 \*\*P<.01

### (3) 初回と4回目の予防有用型における基本情報の変動

初回と4回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「麻痺（その他）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（足関節）」、「拘縮（その他）」、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」、「移乗」、「立ち上がり」、「片足での立位」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「視力」、「聴力」、「毎日の日課を理解」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「同じ話をする」、「常時の徘徊」、「収集癖」、「火の不始末」、「不潔行為」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「透析」、「酸素療法」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「浴槽の出入り」、「片手胸元持ち上げ」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」の53項目で有意な差が示された。このように2回目は、46項目、3回目は、47項目と示されていたことから、認定回数が増加するごとに有意差が生じる項目数は増加していた。

このうち4回目に、はじめて有意差が示されることとなった項目は、「拘縮（足関節）」、「寝返り」、「立ち上がり」、「同じ話をする」、「収集癖」、「酸素療法」、「片手胸元持ち上げ」の7項目でこれらの項目のうち「片手胸元持ち上げ」を除く項目はすべて初回よりも4回目に悪化していた項目であった。また「洗身」、「大声を出す」、「両足つかない座位」の3項目は、2回目、3回目には、初回との有意差が示された項目であったが4回目には示されなかった。

初回から4回目にかけて悪化傾向が示された25項目は、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（膝関節）」、「皮膚疾患」、「つめ切り」、「金銭の管理」、「毎日の日課を理解」、「片足での立位」、「洗身」、「聴力」、「短期記憶」、「今の季節の理解」、「透析」、「居室の掃除」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」といった項目は、3回目までに初回と比較して悪化した項目として示されていた。

これに追加して「拘縮（足関節）」、「寝返り」、「起き上がり」、「立ち上がり」、「薬の内服」、「視力」といった項目に悪化の傾向がみられ、「同じ話をする」、「収集癖」、「ひどい物忘れ」といった問題行動が発生する割合も増加していた。さらに「酸素療法」の発生も増加していた。改善が示された28項目のうち、「両足での立位」、「移乗」、「両足での座位」、「片手胸元持ち上げ」については、介助を必要とする割合が減少しており、初回から運動能力が

向上したことが推察された。

また「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」ならびに「排尿後の後始末」や「排便後の後始末」、「浴槽の出入り」、「洗身」、「居室の掃除」、「薬の内服」といった日常生活に必要な動作等において改善が示されていた。

「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「大声を出す」、「常時の徘徊」、「不潔行為」、「周囲への無関心」といった認知症の随伴症状についての発生率や「火の不始末」といった危険な行動も発生率が低下しており、症状の緩和がもたらされたことが推察された。

さらに「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」といった医療処置の発生も低下していた。

表 190 初回と4回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

基本情報	2回目	3回目	4回目
拘縮(足関節)	0.61	0.08	0.01 *
寝返り	0.07	0.91	0.00 **
立ち上がり	0.70	0.08	0.00 **
同じ話をする	0.69	0.22	0.02 *
収集癖	0.43	0.14	0.00 **
酸素療法	0.80	0.56	0.04 *

\*P<.05 \*\*P<.01

表 191 初回と4回目に改善傾向が示された新たな基本情報

基本情報	2回目	3回目	4回目
片手胸元持ち上げ	0.66	0.17	0.01 *

\*P<.05 \*\*P<.01

表 192 初回から4回目にかけて悪化傾向が示された基本情報

1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(膝関節)	0.00	**
5	拘縮(足関節)	0.01	*
6	寝返り	0.00	**
7	起き上がり	0.00	**
8	立ち上がり	0.00	**
9	片足での立位	0.03	*
10	皮膚疾患	0.00	**
11	つめ切り	0.00	**